

東和薬品株式会社  
2026年3月期第3四半期 決算説明会

【概要】

日時:2026年2月17日(火)15:00~15:45

登壇者:取締役	國分 俊和
取締役	竹安 正顕
上席執行役員 生産本部長	田畑 哲朗
上席執行役員 R&D本部長	奥田 豊
上席執行役員 原薬事業本部長	谷口 孝彦
執行役員 経営戦略本部長	中村 豪之
執行役員 経理財務本部長	畑上 史朗
執行役員 営業本部長	大石 康之

【決算説明スクリプト】

※目次や参考資料など、ご説明していないスライドは省略しています。

2026年3月期  
第3四半期 決算補足説明資料

2026年2月  
(証券コード:4553)

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

東和薬品

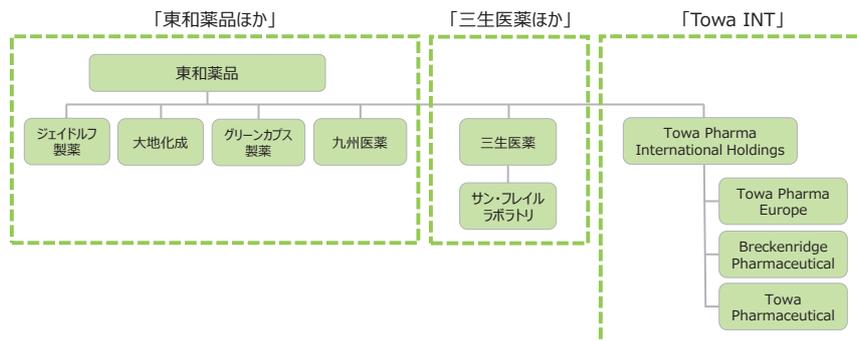
本日は、お忙しいところ ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。  
東和薬品の國分でございます。

それでは私から  
“2026年3月期第3四半期 決算補足説明資料”に沿って、  
ご説明いたしますので、よろしくお願いたします。

## 決算開示資料について

### 注意事項

- 本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして、東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、三生医薬、サン・フレイルラボラトリーを「三生医薬ほか」と表記しております。  
なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。  
また、海外セグメントのTowa Pharma International Holdingsにつきまして、「Towa INT」と表記しております。



それでは、スライド1ページをご覧ください。  
ご説明に先立ちまして、  
当第3四半期の決算開示内容の前提についてご説明いたします。

本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして  
東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、  
グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、  
三生医薬、サン・フレイルラボラトリーを「三生医薬ほか」と表記しております。  
なお、2025年4月1日に三生医薬を存続会社、  
カマタを消滅会社とする吸収合併を行いました。

また、海外セグメントの  
トーワ・ファーマ・インターナショナル・ホールディングス及び  
その子会社につきましては、  
「トーワ アイ エヌ ティー」と表記しております。

## 2026年3月期第3四半期 決算について

### ● 前年同期比：連結で増収増益

売上高は、東和薬品で生産数量の増加に伴い販売数量が増加したこと、三生医薬で国内健康食品事業が伸びたこと、Towa INTで欧州BtoBの受託製造が増加したことにより、増収  
 売上総利益は、東和薬品の増収と、Towa INTの生産数量が増加したこと等による原価率の低下が、三生医薬の事業ミックスが悪化したことによる原価率の上昇を補い、増益  
 営業利益は、3区分全ての販管費の増加を、東和薬品・Towa INTの売上総利益の増加が補い、増益  
 経常利益は、デリバティブ評価益を約45億円計上したことにより、増益

### ● 通期計画比：連結で、売上高72.9%、営業利益72.2%

売上高は、東和薬品で限定出荷解除後の伸びが想定よりも小さい製品があり、進捗率は低調に推移  
 営業利益は、三生医薬で事業ミックスが悪化したことにより原価率が想定よりも上昇し、進捗率は低調に推移  
 経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約45億円計上したことにより、進捗率は好調に推移

	26/3 3Q実績		25/3 3Q実績	26/3 通期計画	
	金額	前年同期比	金額	金額	進捗率
売上高	2,040億円	+ 5.3%	1,937億円	2,800億円	72.9%
売上総利益	751億円	+ 6.2%	707億円	1,040億円	72.2%
営業利益	194億円	+ 4.7%	186億円	270億円	72.2%
経常利益	239億円	+ 10.3%	217億円	253億円	94.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	170億円	+ 16.8%	146億円	177億円	96.5%
期末レート (TTM) 1ドル	26/3 3Q 156.56円	25/3 4Q 149.52円	25/3 3Q 158.18円	24/3 4Q 151.41円	

こころの実績を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

4

続きまして、スライド4ページをご覧ください。  
 当第3四半期の決算について、ご説明いたします。

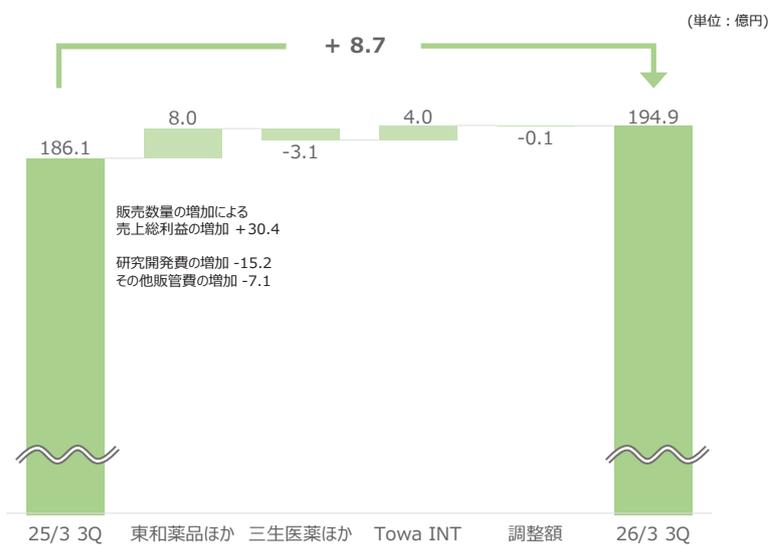
連結売上高は、約2,040億円となり、前年同期比5.3%の増収、  
 連結営業利益は、約194億円となり、前年同期比4.7%の増益となったものの、  
 いずれも、進捗率は低調な推移となりました。

各セグメントの決算概要については、  
 「東和薬品ほか」は増収・増益で、  
 売上高は計画に対して低調に推移したものの、  
 セグメント利益は計画通りの進捗となりました。

「三生医薬ほか」は増収・減益で、  
 売上高は計画通りに進捗したものの、  
 セグメント利益の進捗率は低調な推移となりました。

「Towa INT」は増収・増益で、  
 売上高と、東和薬品との内部取引を除くセグメント利益は  
 計画通りの進捗となりました。

## 2026年3月期第3四半期 営業利益の増減要因



スライド5ページをご覧ください。  
連結営業利益の増減要因について、ご説明いたします。

「東和薬品ほか」において、  
販売数量の増加に伴い売上総利益が増加したこと等により、  
連結営業利益は前年同期比約8.7億円の増益となりました。

## 2026年3月期第3四半期 決算概要（連結）

- 売上高・営業利益の前年同期比は、東和薬品において生産数量の増加に伴い販売数量が増加したこと、Towa INTで欧州BtoBの受託製造が増加したことが、三生医薬の業績悪化を補い、増収増益  
通期計画比は、東和薬品で限定出荷解除後の売上が想定よりも伸びなかった製品があったこと、三生医薬で売上原価率が想定よりも上昇したことにより、進捗率は低調に推移
- 経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約45億円計上したことにより、増益で進捗率も好調に推移  
なお、金融市場環境や為替動向等が不透明な部分があるため、通期計画は変更していない  
(前年同期はデリバティブ評価益を約17億円計上)

(単位：百万円，%)

	26/3 3Q実績			25/3 3Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	204,065	100.0	+ 5.3	193,737	100.0	280,000	100.0	72.9
売上原価	128,944	63.2	+ 4.8	122,993	63.5	176,000	62.9	73.3
販管費	55,629	27.3	+ 6.7	52,132	26.9	77,000	27.5	72.2
営業利益	19,490	9.6	+ 4.7	18,611	9.6	27,000	9.6	72.2
経常利益	23,988	11.8	+ 10.3	21,756	11.2	25,300	9.0	94.8
税引前四半期純利益	23,950	11.7	+ 9.7	21,831	11.3	25,300	9.0	94.7
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,082	8.4	+ 16.8	14,624	7.5	17,700	6.3	96.5

こころの実績を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

6

スライド6ページをご覧ください。  
連結の決算概要について、ご説明いたします。

連結売上高・連結営業利益の前年同期比は、東和薬品で販売数量が増加したこと、Towa INTで欧州BtoBの受託製造が増加したことが、三生医薬の業績悪化を補い、増収増益となりました。

通期計画に対しては、東和薬品で限定出荷解除後の売上が想定よりも伸びなかった製品があったこと、三生医薬で原価率が想定よりも上昇したことにより、進捗率は低調な推移となりました。

連結経常利益は、計画外のデリバティブ評価益を約45億円計上したことにより増益で、進捗率は好調な推移となりました。

なお、金融市場環境や為替動向等が不透明な部分があるため、通期計画は変更しておりません。

## 2026年3月期第3四半期 決算概要（東和薬品ほか）

- 売上高は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したことにより、増収  
9月の限定出荷解除後、市場が安定している製品など想定よりも伸びが小さい製品があり、進捗率は低調に推移引き続き通常出荷に戻した製品や近年追補品の拡売に努める
- セグメント利益は、研究開発費などの販管費の費消が遅れたことにより、増益で計画通りの進捗

(単位：百万円，%)

	26/3 3Q実績			25/3 3Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	141,670	100.0	+ 5.9	133,779	100.0	196,500	100.0	72.1
売上原価	85,169	60.1	+ 6.0	80,319	60.0	118,500	60.3	71.9
販管費	34,789	24.6	+ 6.9	32,551	24.3	49,800	25.3	69.9
セグメント利益	21,710	15.3	+ 3.8	20,908	15.6	28,200	14.4	77.0

- 販売数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **119.0億錠** 対前年同期**3.3%増加** 通期計画進捗率**74.0%**
- 生産数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）  
→ **121.3億錠** 対前年同期**16.6%増加** 通期計画進捗率**74.6%**

こころの実業を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

7

スライド7ページをご覧ください。  
「東和薬品ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したことにより、前年同期比5.9%の増収となりました。

通期計画に対しては、9月の限定出荷解除後、市場が安定している製品などが想定よりも伸びなかったため、進捗率は低調な推移となりました。

引き続き、通常出荷に戻した製品や近年追補品の拡売に取り組んでまいります。

セグメント利益は、3.8%の増益で、研究開発費などの販管費の費消が遅れたことにより、計画通りの進捗率となりました。

東和薬品単体の販売数量は約119.0億錠となり、対前年同期3.3%の増加となりました。

また、生産数量は約121.3億錠となり、対前年同期16.6%の増加となりました。

## 2026年3月期第3四半期 決算概要（三生医薬ほか）

- 売上高は、国内健康食品事業が伸長したことにより、増収で計画通りの進捗
- セグメント利益は、利益率の良いニューアプリケーション事業が想定よりも伸びず、事業ミックスが悪化して売上原価率が上昇したため、減益で進捗率も低調に推移
- なお、ニューアプリケーション事業において競争環境が激化し、受注の一部を失注  
競争環境は悪化しているが、通期計画達成に向けて新規顧客開拓や営業活動の強化に努める

(単位：百万円，%)

	26/3 3Q実績			25/3 3Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	22,099	100.0	+ 5.6	20,933	100.0	30,200	100.0	73.2
売上原価	17,823	80.6	+ 8.7	16,400	78.3	23,200	76.8	76.8
販管費	3,196	14.5	+ 1.8	3,139	15.0	4,600	15.2	69.5
セグメント利益	1,080	4.9	- 22.5	1,393	6.7	2,400	7.9	45.0

※のれん償却費は含みません。

スライド8ページをご覧ください。

「三生医薬ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、国内健康食品事業が伸長したことにより、前年同期比5.6%の増収で、計画通りの進捗となりました。

セグメント利益は、利益率の良いニューアプリケーション事業が想定よりも伸びず、事業ミックスが悪化して売上原価率が上昇したことで、前年同期比22.5%の減益で、進捗率も低調な推移となりました。

なお、ニューアプリケーション事業は競争環境が激化したことで、受注の一部を失注するなど、競争環境は悪化しておりますが、通期計画の達成に向けて新規顧客開拓や営業活動の強化に取り組んでまいります。

## 2026年3月期第3四半期 決算概要 (Towa INT)

- 売上高は、米国でのニトロソアミン問題による主力製品の売上悪化が続いているものの、欧州BtoBにおいて欧州のニトロソアミン基準厳格化前の駆け込み需要により受託製造が増加し、増収が替影響もあり、計画通りの進捗
- セグメント利益は、増収と、欧州BtoBにおいて生産数量が増加したこと等により売上原価率が低下し、増益  
東和薬品との内部取引（共同開発によるライセンスフィー）を除く利益は計画通り着地する見込み (単位：百万円, %)

	26/3 3Q実績			25/3 3Q実績		26/3 通期計画		
	金額	対売上 高比率	前年 同期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	進捗率
売上高	40,844	100.0	+ 4.3	39,164	100.0	54,600	100.0	74.8
欧州	26,877	65.8	+ 12.9	23,806	60.8	34,200	62.6	78.6
米国	13,967	34.2	- 9.1	15,358	39.2	20,400	37.4	68.5
売上原価	26,158	64.0	- 0.9	26,399	67.4	34,600	63.4	75.6
販管費	14,648	35.9	+ 11.5	13,133	33.5	19,300	35.3	75.9
セグメント利益 (損失)	38	0.1	-	- 368	- 0.9	700	1.3	5.4
期中レート (TTM) 1ユーロ	26/3 3Q 171.83円	25/3 3Q 164.83円	26/3 想定レート 156.00円	期中レート (TTM) 1ドル	26/3 3Q 148.74円	25/3 3Q 152.57円	26/3 想定レート 145.00円	

※通期計画の売上高・セグメント利益には、東和薬品との内部取引を含みます。  
※のれん償却費は含みません。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

9

スライド9ページをご覧ください。

「Towa INT」の決算概要について、ご説明いたします。

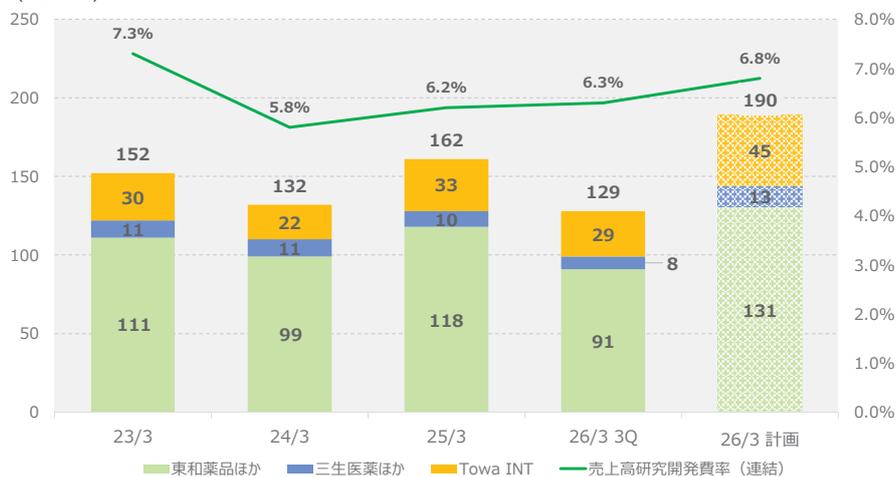
売上高は、米国でニトロソアミン問題による主力製品の売上悪化が続いているものの、欧州BtoBで欧州のニトロソアミン基準厳格化前の駆け込み需要により受託製造が増加し、前年同期比4.3%の増収となりました。

通期計画に対しては、為替影響もあり、計画通りの進捗率となりました。

セグメント利益は、増収と、欧州BtoBで生産数量が増加したこと等により売上原価率が低下したことで、増益となりました。通期計画に対しては、東和薬品との内部取引を除く利益は計画通り着地する見込みとなっております。

## 研究開発費（連結）

(単位：億円)



※グループ間取引消去後の数値を使用しております。  
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。  
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

こころの実績を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

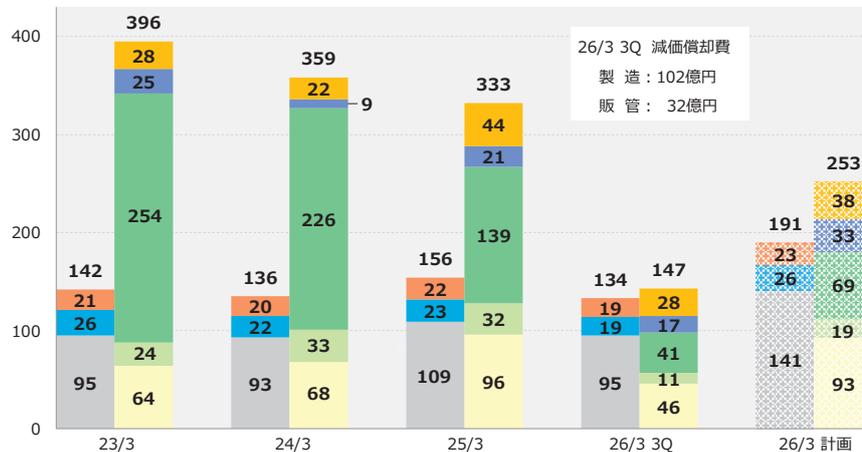
10

スライド10ページをご覧ください。  
 研究開発費の推移と計画との比較について、ご説明いたします。

東和薬品における新製品開発の月ズレ等により、  
 連結で約129億円と進捗に遅れがあるものの、  
 通期では計画通りに着地する見込みとなっております。

## 設備投資・減価償却費（連結）

（単位：億円）



※設備投資には有形固定資産・無形固定資産の取得を含みます。  
 ※減価償却費には研究開発費分を含みます。  
 ※減価償却費にはTowa INT及び三生医薬のれん償却費を含みません。  
 ※Towa INTと三生医薬の23年3月期の連結会計年度は  
 2022年1月1日～2023年3月31日の15ヶ月となっております。  
 ※25年3月期より億円未満の端数処理方法を変更しております。

■設備投資（Towa INT）  
 ■設備投資（山形工場）  
 ■設備投資（その他）  
 ■減価償却費（三生医薬ほか）

■設備投資（三生医薬ほか）  
 ■設備投資（岡山工場）  
 ■減価償却費（Towa INT）  
 ■減価償却費（東和薬品ほか）

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.

11

スライド11ページをご覧ください。  
 設備投資・減価償却費の推移について、ご説明いたします。

当第3四半期の設備投資は約147億円となり、  
 ほぼ計画通りに進捗しております。

減価償却費は約134億円となっております。

## 目次

1. 2026年3月期第3四半期 決算概要
2. 参考資料

最後に スライド12ページからスライド22ページにて、参考資料を記載しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。  
ご清聴いただきありがとうございました。

## 【質疑応答要旨】

※ご参考として、決算説明会における質疑応答の内容を要約したものです。

Q：Towa INTについて、ニトロソアミンの基準厳格化前の駆け込みによって粗利率が改善していると思うが、これは一過性なのか、今後も継続的に改善するのか。

A：ニトロソアミン問題について、米国では当該製品の販売を中断して売上が落ちているが、欧州は順調に進捗している。また、欧州での基準厳格化前に駆け込み需要が発生し、一定量売上が増加した。ここは一過性のものであることは確かだが、マルトレージャス工場の受託生産を増やすことで原価率や利益の向上に向けて活動している。

Q：薬価改定について、来年からAGの薬価が先発品と同じになるため、生産数量の計画が立てやすくなると思う。増産の必要性も出てくると思うが、計画に何か変更はあるのか。

A：来期は175億錠体制、それ以降は他社への委託や自社の生産効率を上げることで増産を進めていきたい。具体的にいつ・どのくらいというところは、通常であれば次期中計での発表になるが、前倒しできるか社内で検討している。元々当社は一定の需要を頂いており供給量上げる必要があったため、薬価改定を受けてさらなる増産の検討を行っているわけではない。

Q：「東和薬品ほか」の3Qの売上が想定より遅れている点について、去年の3Qが選定療養の影響で大幅に増加していたとはいえ、生産が上手くいっている中でもう少し増えても良かったのではないかと。

A：昨年は選定療養の影響で増加したが、1年経って外部環境の変化も感じている。去年の3Qと比べると各社の供給が安定してきており、当社が限定出荷を解除しても以前ほど需要を頂けない品目も出てきている。そのような状況もあり、数字の伸びが昨年よりも鈍化したと分析している。

Q：御社が限定出荷にしている間に他社に切り替えられた製品の需要が戻ってこないという現象は以前もあったと思うが、今回も同じような状況なのか。1回切り替えてしまうとなかなか戻りにくく、4～5月の医療機関での切り替えのタイミングで取り返すしかないのか。

A：3Qに入ると4月の薬価改定が間近に迫ってくるため、薬剤の選定や切り替えに消極的な傾向は発生すると思われる。そのような状況もあり少し鈍化したと考えている。今回の薬価改定では企業指標など様々な制度変更があるため、商機を確実に捉えながら当社製品への切り替えを推進していきたい。

Q：増産について、来期の175億錠から225億錠に向けて取り組まれていると思う。実際に50億錠増えるとする平均単価をかけて600億円程度売上が増えることになると思うが、

費用面はどうか。

A：175 億錠以降の増産については、自社の生産効率を高めることと他社への委託数量を増やすことで増産していきたい。新たな工場を建設するといった大幅な投資は考えていない。

Q：大塚製薬様との協業は50億錠の増産に直接繋がるものではないとのことだが、この協業はどういった目的で行われるのか。

A：大塚製薬様との協業は、短期的な増産というより、中長期的なライセンスの活用や長期収載品の受託を通じた処方・製法統一、バックアップ生産などによる強固な安定供給体制の構築を考えている。既存品と新規品の両方で、今後どのようなことができるか個別品目ごとに検討していきたい。特許満了医薬品と表現しているが、ジェネリック医薬品だけではなく長期収載品も含めた形で同じ市場の中での安定供給を守っていくというところが大きな目的である。

Q：大塚製薬様との協業の1番の目的は、業界全体の安定供給をしっかりとやりたいという理解で間違いないか。長期収載品の患者負担が増加していくタイミングで長期収載品に取り組むということが、個人的には少し理解しづらい。収益性というより業界全体の安定供給を考え、併せて大塚製薬のノウハウを学びたいという考え方なのか。

A：基本的な考え方としてはおっしゃる通り。弊社が長期収載品のビジネスを行うというわけではなく、また受託事業を行うというわけでもない。特許が切れた後の医薬品については社会インフラであり、長期収載品とジェネリック医薬品を合わせて同じ市場での安定供給を担って、患者様に医薬品が十分届くようにしていく責務があると思っている。お互い協力して安定供給を実現するためにはどうすれば良いのか、生産の技術的なノウハウや効率性、ナレッジ、ライセンスなどを共有していきたい。業界や市場、患者様を守っていくということが大きな目的だと思っていただきたい。

Q：研究開発費の費消が遅れている。例年通りの傾向だが、通期でも未消化となる可能性は高いのか。

A：例年の傾向として研究開発費の費消は遅れているが、金額幅は縮小されつつある。今回も販管費の費消遅れのうち研究開発費が占める割合は4割程度であり、現状は計画通り費消する予定としている。

Q：生産数量について、26年度は175億錠だが、27年度以降に効率化や協業が間に合わない可能性はあるのか。175億錠から生産数量が増加せず販売数量が上回って、卸や医療機関から供給できないのではないかと敬遠されるリスクはないのか。

A：175億錠以降の増産に向けた取り組みは既に始めており、供給数量をどの程度増加させられるかは、現時点では開示できない。しかし、これまで生産委託に積極的ではなかったた

め、供給数量を増加できる余地はあると考えている。販売数量と生産数量の兼ね合いについては、需要にお応えできるだけの生産数量を早期に実現する必要があるということが当社に求められている課題だと認識している。

Q：生産数量が約 16%増加し、生産体制も整ってきたと理解している。上期は生産体制が安定するまで応援の派遣や新人の育成などコスト増があったと思うが、これは 3Q で一巡し、4Q あるいは来期に向けて原価率の改善に繋がってくるのか。

A：4Q 以降、コストが減っていくということはない。応援・育成はご理解の通り進めているが、4Q で大きく改善されるわけではなく、1 年ほどは続く想定している。人件費によるコスト増は想定通りに発生するものだと考えている。

Q：労務費以外の生産にかかるコストについて、生産体制が安定したことで歩留まりも含めて改善し、原価率改善に繋がるというシナリオは期待しすぎか。

A：原価率には原材料費の影響が大きく、為替の影響も受ける。価格上昇が即時に反映されることはないものの、原材料費の上昇傾向は続くと思込んでいる。原価率の改善に向けては、セールスマックスの見直しや生産効率の向上に取り組んでいる。

Q：三生医薬について、計画達成には 4Q 単体で約 10 億円の営業利益が必要になり、少しハードルが高いという印象を受けている。売上高も含め、収益性の改善を実現するためには何が必要なのか。

A：三生医薬のセグメント利益について、今期計画の達成は厳しい状況であり、連結の業績は東和薬品の利益でカバーしていきたい。三生医薬は、ニューアプリケーション事業の競争環境が激化しており、改善に向けて新規顧客獲得と生産数量の増加に取り組んでいるが、今期中に効果を出すことは難しいと考えている。

Q：今回の制度改定で「地域支援・医薬品供給対応体制加算」にジェネリック医薬品の要件が組み込まれ、需要はさらに増えると思う。御社の生産数量・供給数量は今期よりも増加すると考えてよいのか。また、企業評価指標について、いつ頃から A ランク企業のシェアが上がりやすい環境になるのか。

A：新たな制度改定に関しては、ジェネリック医薬品の数量割合の要件が 80%以上から 85%以上になること、選定療養の患者負担が 1/4 から 1/2 に引き上がることなどから、よりジェネリック医薬品の需要増加に繋がると考えている。企業評価指標については、A ランク・B ランク・C ランクが明らかになるため、メーカー集約のような流れで A ランク企業が選ばれるようになると思込している。当社としても期待に応えられるように頑張りたい。

Q：3 ヶ月毎の販売数量を見ると 3Q はフラットに見えるが、要因は先ほど説明があった通り

か。差引きで4Qは約25%増収にならないと計画達成できないが、メホビル等の新製品も含めて、今後の販売数量の見立てはどうか。

A：3Qは対1Q・対2Qと比較すると増加しているが、昨年の3Qと比較するとフラット。限定出荷解除を9月に行ったものの、想定よりも売上が伸びなかったことが1つの要因である。新製品のメホビルに加え、既存品の限定出荷解除を進めて計画達成に向け取り組んでいく。

Q：限定出荷解除後に売上が戻ってこないという課題について、対応策は何かあるのか。

A：限定出荷を解除した品目は、薬価改定等のタイミングで取り返していく必要がある。一方、全品目で各メーカーが安定供給できているわけではないため、今後は市場で不足している製品を積極的に限定出荷解除していくことで売上を増加させていきたい。営業活動を通じて医療機関で不足している製品を把握し、営業本部・生産本部・経営戦略本部で連携して限定出荷解除を進めていきたい。

Q：今年度新製品の売上実績が約21億円だが、会社予想に対する進捗はどうか。

A：6月・12月追補を合わせた売上計画が約32.7億円で実績が約21億円であり、比較的計画通りに進んでいる。

Q：26年2月承認のリリースもあったが、御社として期待している製品を教えてください。

A：予算作成段階のため、現時点では回答を控えさせていただきたい。

Q：三生医薬について、売上高・粗利益ともに進捗が遅れているが、販管費は抑えている印象である。通期でもこの傾向で推移するのか、例年通り消化していくのか。今期予想に対して未達の中、未達幅を減らせるのか教えてほしい。

A：未達幅を減らすための取り組みとして、売上高を上げることと販管費の適正化を行っている。